

かみやど むなかた

「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」

本資産は、「神宿る島」沖ノ島を崇拝する文化的伝統が、古代東アジアにおける活発な対外交流が進んだ時期に発展し、海上の安全を願う生きた伝統と明白に関連し今日まで継承されてきたことを物語る稀有な物証である。

沖ノ島には4世紀から9世紀の間の古代祭祀の変遷を示す考古遺跡が、ほぼ手つかずの状態です。沖津宮、中津宮、辺津宮の古代祭祀遺跡を含むこれらの三つの場は、宗像大社という信仰の場として現在まで続く。18世紀までに成立した沖津宮遙拝所は、上記で述べたような沖ノ島を遙拝する信仰の場である。そして、その信仰を担い育てた宗像氏の存在を物語る資産が、新原・奴山古墳群である。

【構成資産】

むなかたたいしやおきつみや おきのしま こやじま みかどぼしら てんぐいわ むなかたたいしやおきつみやようはいしよ
 宗像大社沖津宮（沖ノ島，小屋島，御門柱，天狗岩），宗像大社沖津宮遙拝所，
むなかたたいしやなかつみや むなかたたいしやへつみや しんぼる ぬやまこふんぐん
 宗像大社中津宮，宗像大社辺津宮（以上，福岡県宗像市），新原・奴山古墳群（福岡県福津市）



沖ノ島



宗像大社辺津宮



沖津宮遙拝所



新原・奴山古墳群

【関係年表】

平成21年	暫定一覧表に記載
平成28年1月	ユネスコへの推薦書提出にかかる閣議了解
同年同月	推薦書の提出
同年9月7日～11日	イコモス現地調査
平成29年5月	イコモス勧告
同年7月9日	第41回世界遺産委員会(クラクフ)において、世界遺産一覧表への記載が決定